



コミュニティ・スクール
長井市立致芳小学校だより
令和6年1月12日 NO.15
校是「和致芳」

みんながなかよく高め合って、たくましく輝く致芳校をつくろう
「一人一人が自己の成長を実感し、笑顔になる学校へ」
～できた！わかった！うれしい！授業の創造～

令和6年（2024年）新年あけましておめでとうございます。
一番大切なものは「いのち」と改めて感じる年明け

1月9日（火）から3学期が始まりました。子供たちの笑顔と元気な声が学校に戻ってきました。3学期は48日間と短い学期ですが、学年の「まとめ」と上の学年への「引継ぎ」のとても大切な学期です。1月は「行」く、2月は「逃」げる、3月は「去」ると言われるほど、あっという間に過ぎてしまいます。為すべきことを計画的に行い、目標を決めて自分を高めてほしいと思います。今年は辰年、天に昇っていく龍のようにどんどん上がっていく運気の年、新しい挑戦に良い年だそうです。本年もどうぞよろしくお願ひいたします。



始業式では児童代表の2年生が、「3学期は、まとめと準備の大切な学期。2学期かけ算九九を全部覚えたようにこれからも難しい問題に取り組んでいきたい。読書も目標の冊数を達成する。あいさつキング＆クイーンで取り組んだように、会釈もつけて寒い冬にも負けないあいさつをする。そして、立派な3年生になりたい。」と、すばらしい発表を行いました。

表を行いました。

元日は能登半島沖で震度7という地震が起こり、日本全体の広範囲で影響がありました。置賜地方でも震度3～4の横ゆれを感じました。この地震で亡くなった方は200名を超え、今も行方不明の方がたくさんいます。道路の崩壊、水や電気などのライフラインが寸断され、避難所生活を余儀なくされている方がたくさん



います。あらためて一番大切なものは「いのち」と感じる年明けでした。もし、学校にいるときだったら？下校時であったら？どうすれば自分の命を守ることができるのか、どう対応すればいいのかを確認していかなければなりません。



年末、クリスマスに合わせてメジャーリーガーの大谷翔平選手がグローブが届いたので、披露しました。大きな夢をかなえ、支えてくれた野球に興味を持ってほしい、次の世代に夢を与え、勇気づけるためのシンボルになることを望んでいます。「野球しようぜ。」というメッセージ付きです。みんなが手に取り、キャッチボールをして使っていきたいと思っています。大谷選手、ありがとうございました。

年末、クリスマスに合わせてメジャーリーガーの大谷翔平選手がグローブが届いたので、披露しま



校内書き初め会



「習い事はじめ」は新年が明けて稽古事を行い、その年の上達を願います。書き初めもその一つです。1月2日に行われることが多いそうです。致芳小では1月10日に書き初め会を行いました。冬休みにも練習してきた文字を書きます。1～2年は硬筆、3～6年は毛筆です。体育館に集合して会を始めました。きりっと引き締まった空気感の中で、「丁寧に」「気持ちを込めて書いていました。



致芳小学校のホームページ・ブログでも子供たちの様子をお知らせしています。カラーでご覧いただけます。こちらのQRコードからどうぞ。



心に残る言葉

「大切な人へ」 後藤敬子氏(助産師、思春期保健相談士)の言葉から

言葉のキャッチボールが生きる力に

「あの…。すみません。あの…」 彼は何度、この言葉を繰り返しただろう。電話の向こうで必死に話そうとしている。私はせかしたくなる気持ちを抑え待ってみた。

「うん、ゆっくりでいいよ」

彼は深呼吸をすると、言葉を発した。

「僕は性格が暗くて、人と話をするのも苦手。下を向いて話すから声も小さい。頭が痛くて小学校も中学校も僕の教室は保健室。先生たちは優しくった。高校でも、楽しそうでいきいきとしている同級生がうらやましい。小さい頃から『暗い』って親から怒られていたんだ」

壇を切ったようにあふれ出した言葉には、涙と痛みを感じた。

「よく電話してくれた。誰かに聞いて欲しかったよね。頑張っていることを見て欲しかったんだね」

「はい。人の眼を避けていました」

「あなたは先生方の優しさや友達の輝きを見つける目を持つてる。世の中には、あなたのように人の話を上手に聞いたり、頑張りを見つけてくれたりする人って大事なんだよ」

「僕みたいなのが大事？」

「親は、あなたの笑顔が好きだから暗くなるなって言ったのよ。下を向いて話すと気持ちが伝わりにくい。会話は言葉のキャッチボール。ピッチャーとキャッチャーが必要なの」

「僕の話は暴投ばかりだけど、キャッチャーが受けてくれていたんだね」

「あなたもしいキャッチャーよ。今まで人と話をするのが苦手だった理由、わかった？」

「うん。投げて受けて伝わるから楽しくて笑う。うらやましがらだけじゃ笑えないんだね」

電話の向こうで笑う彼を親にも見せたいと思った。